

新潟市立東中学校だより

教育目標「進んではげむ、心ゆたかな生徒」

令和6年6月28日

第3号

0254-22-3824

0254-26-3543

新潟県では、毎年6月と11月の年2回、学校、家庭、地域が連携して、社会みんなで、「いじめの解消と未然防止」に向けて取り組んでいます。そこで、6月の全校朝会では、ある一人の男の子の話を、生徒の皆さんにお話ししました。私の話を真剣に受け止め、聴いてくれる生徒の皆さん姿が、そこにありました。

一人一人が大切な人 誰かの大切な人 ～6月「全校朝会」校長講話より抜粋

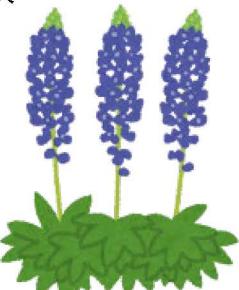
校長 今野 由紀子

男の子は、3人兄弟の長男として生まれました。へその緒が、首に巻きついて生まれ、足は内反足、障害を持って生まれました。4歳離れて下に妹、9歳下には弟がいて、妹や弟想いの優しい男の子でした。

その男の子は、生まれたときに障害を持って生まれたため、他の人と同じことができない、勉強も苦手でした。靴紐だってうまく結べない。運動だってうまくできない。そんな男の子でした。

その男の子が小学校5年生の時、妹は1年生でした。ある日、妹が体育館に行くと、お兄ちゃんが泣きながら、「ろくぼく」に登っていました。でも、妹がよく見ると、お兄ちゃんは、何人の同級生に囲まれ、無理矢理、「肋木」に登らされていたのです。足が内反足で、運動のできない男の子には、それは恐怖でしかありませんでした。周りの同級生は、大笑いしながら「登れ、登れ」とはやし立てます。妹は、見ていたりませんでした。止めることもできず、涙をこらえながら、その場を後にしました。家に帰ってから、泣きながらお母さんに、その日見た出来事を話しました。

その男の子はよく家族に、「自分は勉強できないし、いろいろうまくできない。だからこそ、妹や弟には、俺の分まで頑張ってもらいたい。」「俺にとって、妹や弟が誇り。」と言っていました。妹が、高校生になって、夜遅くまで勉強していると、「これ食べて。」と夜食をもってくる優しいお兄ちゃんでした。



男の子は、家族にとって大切な人。妹の人生にとって、とても大事な人でした。…

皆さん一人一人は先生たちにとって大切で大事な一人、誰かにとって大切な人です。だからこそ、仲間を傷つけるのではなく、一人一人を大切にできるそんな人になってほしいと思います。

時間のある人は、「感じたこと」を聞かせてほしいとお願いしたところ、ロイロノートを通じて100人以上の生徒の皆さんから感想が寄せられました。一部を紹介します。

世の中にはいろいろな人がいて、その人一人の個性があると思ったのでそのような人に出会ったらその人を尊重し、優しく接したいと思いました。

お兄さんが言っていた、「僕は妹や弟がいてほんとに誇らしい」と言った言葉がすごく心に刺さりました。いじめをしている人を見たら、絶対に注意することが改めて大切だと思いました。

みんな得意なことや好きな物、背の高さなど違うことがたくさんあります。なのに「障害がある」という違いだけでいじめたりするのは良くないと思いました。

校長先生はいじめを見た時に辛いと感じたと言っていたけど、今も覚えているし、話すことが辛いと思います。だけど話してくれて嬉しかったです。ありがとうございました。

話を聞いて、いじめはしてはいけないことだと思ったし、一人一人が大切な人ということが分かったし、いじめを受けている人がいたら他人事ではなくて自分も何かできることをしたいと思った。

何かの障害があってもなくてもいじめをするのは本当にいけないのだなと改めて思いました。友達がいじめをされていたら真っ先に助けたいし、自分がされたら一人で抱え込まないことを大事にしていきたいです。



いじめのリアルの怖さを知ることができました。他人事だと思わないで、真剣に考えたいです。

「いじめを受けた人は誰かにとって、とても大切な人」と言う言葉が胸に響きました。

悲しいし胸にささるお話でした。いじめは本当にこの世からなくなつてほしいと思うほど、いじめが大嫌いです。

いじめは、された人も、それをみた身近な人（友達や兄弟）嫌な気持ちになる。
→ 一人一人みんな大切な人ということがわかりました。その大切な人を、大切にしたいです。

校長先生の話を聞いてもし自分だったらと考えると、とても苦しくなりました。そして最後の方のお話で、校長先生に一気に親近感が増して、もっといじめをしてはいけないと思いました。

こんな身近に辛い思いをされていたと知って他人事ではないと、改めて知ることができました。いじめをする人にも、される人にも、見る人にもなりたくないでの、いじめが少なくなるようにまずは自分の行動から変え、思いやりを持ち、辛い思いをしている人の支えになれる存在になりたいと思いました。

自ら考える①

「命」を守るために「校則の見直し」

今年度の生徒会スローガンは「花束」～咲かせよう みんなの思いを1つに～です。その重点取組事項の一つに、「生徒一人ひとりが過ごしやすい学校をつくるための校則の見直し」を掲げています。5月には生徒会書記局から、『体操着の半そでシャツのすそ出しを許可してほしい』という意見が出され、生徒会書記局と先生たちとで話し合いを重ねてきました。その結果について、臨時全校朝会で、生徒会長から、以下の話がありました。

【体操着の半そでシャツのすそ出しに向けて】

～生徒会長からの話～

○ 熱中症から命を守るために校則を見直し、半袖シャツのすそ出しをしてよいことになりました。ただし！

- ・体育では、すそが広がることで、挟まつたり転んだりする原因になるため、すそを入れてください。理科の実験では、火を使つたり危険な液体を使つたりすることがあるのですそを入れてください。
- ・校外の活動のときは、すそを入れてください。(マナーとして)

どうか、安心安全な学校生活を送るため、また熱中症予防を心がけて、全校生徒がより良い学校生活を送れるよう、一人ひとりが心がけてほしいと思います。



6月18日 1学年委員会
体育祭学年種目の練習光景

生徒の皆さんからの「命を守るために」の主体的な校則の見直しの提案があり、実現しました。と同時に、「シャツのすそを入れるのは、どのような時」なのかを自ら考え実行にうつしていくことも大切になってきます。生徒の皆さん自身が自ら考え、判断していく力に期待しています。

自ら考える② 「全校交通安全教室」で命の大切さを実感 5月29日

新潟県警察本部、新発田警察署、そしてスタントマンの方々にお越しいただき、全校交通安全教室が行われました。今年度は、県内で6校だけに実施していただいたものです。実際の交通事故を実演していただき、交通ルールを守ることの大切さを学びました。

「命は皆さん一人一人に与えられた時間です。だからこそ、ルールをしっかりと守ってほしい。」「マナーは、思いやりが態度に現れるもの、ルールは、必ず守るもの」というスタントマンの方の言葉が印象的でした。



自ら考える③ 「ネットトラブル防止教室」

5月31日

KDDI所属の宍戸真様を講師にお招きし、ネットトラブルの恐ろしさについて学びました。友だちの写真を勝手にネット上に載せたら犯罪になり、一度載せた画像や動画は削除しても、10年後にもまたネット上にあがってくることもあるそうです。大切なのは、「冷静によく考える」ことであり、「相手の気持ちを想像できるようになる」ことができれば、「自分の行動についてよく考えるようになる」とのことでした。自ら考え、正しい判断をすることが、自分を守ることにもつながります。



普段の「授業の様子」から



英語の授業（ICTの活用）



音楽の授業（合唱練習）



技術の授業（道具の使い方）

○7月の主な行事予定

詳細な予定については、学年だより、メール配信等でご確認ください。